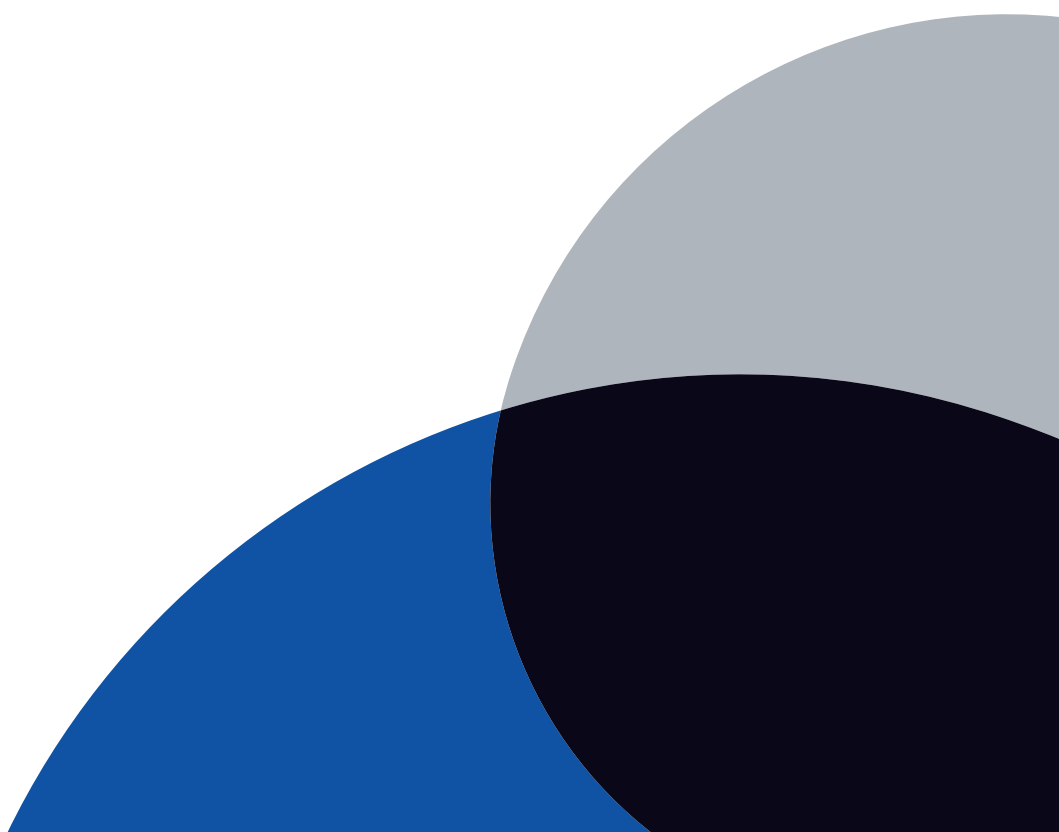




第15期 2011年1月1日～2011年12月31日

# SIOS Report Vol.11



# Software for Innovative Open Solutions

私たちは、夢溢れるソフトウェアテクノロジーで  
価値を創造し、社会の発展に貢献します。

## 株主・投資家の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年3月の東日本大震災により被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

ここに、第15期（2011年1月1日～2011年12月31日）の「SIOS Report Vol.11」を皆様にお届けし、当期の業績のご報告とともに、今後の見通し等につきましてご説明申し上げます。



代表取締役社長  
喜多 伸夫

## 当期のポイント

### ■ 売上高 5,110百万円（前年同期比 2.5%増）

- ▷ 「LifeKeeper」<sup>(1)</sup> は、大規模案件の減少等により減収だが、第3四半期以降、徐々に増収基調に回復
- ▷ 「Red Hat Enterprise Linux」<sup>(2)</sup> は、新規受注金額は堅調に推移したが、旧製品が減収
- ▷ 「SIOS Integration for Google Apps」<sup>(3)</sup>、MFP関連ソリューション<sup>(4)</sup>等は順調に収益貢献

### ■ 営業利益 △155百万円（前年同期は営業利益△283百万円）

### ■ EBITDA 151百万円（前年同期比188.9%）

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

▷ 受託開発における不採算案件が、第2四半期までのコスト増加要因となるが、徹底したコスト削減を継続し、営業損失幅縮小に寄与

以上により、当期の業績は、次頁の財務ハイライトに記載する結果となりました。

当社グループを取り巻く事業環境は、国内の経済活動に回復の兆しが見られるものの、依然として不透明な状況であり、企業の情報化投資抑制の動きも継続しています。このような中、当社グループでは、引き続き高い市場成長が継続しているクラウドコンピューティング<sup>(5)</sup>（以下、クラウド）や、従来からの強みであるオープンソースソフトウェア<sup>(6)</sup>（以下、OSS）に関連する領域での活動強化、及び徹底したコスト削減を推進してきました。次期は、売上高の伸長と営業損益の黒字化を基本方針とし、「クラウド」と「OSS」への注力を継続するほか、新たなビジネス創出やグループ各社での連携を積極的に推進します。

今後とも、より一層のご指導ご鞭撻をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 目次

株主・投資家の皆様へ	1
財務ハイライト	2
今後の見通し	3
サイオスの取り組み	4、5、6
要約連結財務諸表	7、8
事業概況（連結）	9
会社概要/株式の状況	10

(1) 米国子会社SIOS Technology Corp. (IHSteelEye Technology, Inc.) の開発製品。本番稼働のサーバーとは別に、同じ環境の予備サーバーを待機させ、万が一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担うHA（ハイアベイラビリティ）クラスターソフトウェア。

(2) 世界をリードするオープンソリューションプロバイダーRed Hat, Inc.が開発するLinux OS。

(3) Googleが提供する、メール、インスタントメッセージ、スケジュール管理、ワープロ・表計算等をパッケージにしたホスティング型アプリケーションサービスGoogle Apps<sup>TM</sup>とお客様の既存の情報システムを直接連携させるサービス。

(4) 2009年から提供を開始したMFP（Multi Function Peripheralの略、1台でプリンタ、スキャナー、コピー、FAXなどの機能を兼ねる機器など複数の機能を搭載した複合的な周辺機器のこと。）上で操作できる文書管理ソフト「Quickスキャン」等。

(5) コンピュータ処理をネットワーク（通常はインターネット）経由で、サービスとして利用できる新しいコンピュータの利用形態。

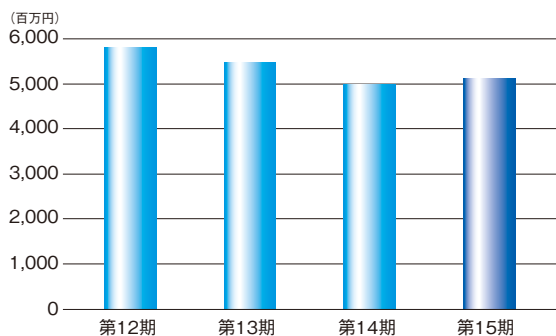
(6) ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを無償で公開し、使用・改良・再配布ができるソフトウェア。

(単位：百万円)

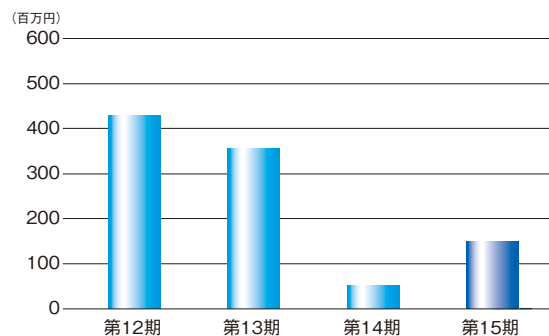
	第12期 2008年 12月期	第13期 2009年 12月期	第14期 2010年 12月期	第15期 2011年 12月期
売上高	5,815	5,480	4,987	5,110
営業利益(△損失)	53	10	△ 283	△ 155
経常利益(△損失)	74	9	△ 286	△ 161
当期純損失(△)	△ 101	△ 33	△ 312	△ 247
EBITDA*	429	356	52	151
総資産	4,985	4,212	3,232	2,775
純資産	2,187	2,120	1,717	1,447
1株当たり当期純損失(△) (円)	△ 1,140	△ 380	△ 3,603	△ 2,855
1株当たり純資産 (円)	24,413	24,169	19,485	16,372
社員数 (名)	184	195	197	199

\*EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

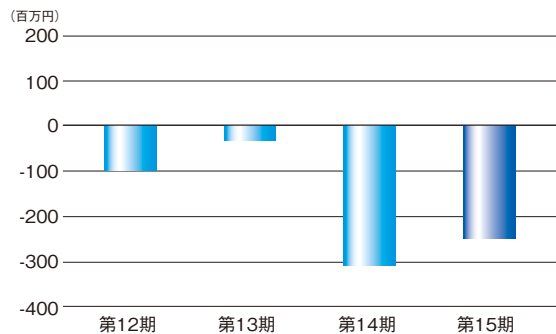
## 売上高



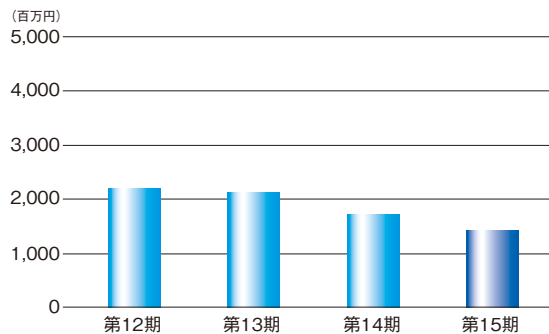
## EBITDA



## 当期純損失



## 純資産



## 中期的な経営目標

当社グループは、中期的な経営目標として「売上高100億円 EBITDA15億円」の達成を目指しており、「クラウド」と「OSS」の分野を中心とした事業構造転換を継続します。

## 次期の見通し

世界経済は欧米を中心に景気後退懸念が払拭されておらず、国内経済においても東日本大震災の影響により落ち込んだ経済活動に回復の兆しが見られるものの、海外景気や為替変動等の影響を受け、不透明な状況が続いています。

このような中、当社グループでは、引続き高い市場成長が継続している「クラウドコンピューティング」や、従来からの強みである「OSS」に関連する領域での既存ビジネス拡大に向けた注力を継続します。また、スマートフォンやソーシャル・ネットワーキング・サービスを始めとする事業環境の変化を新たなビジネス創出のチャンスと捉えた展開や、グループ各社での連携を積極的に推進します。

また、米国子会社にて新サービスとして推進してきた「CloudStation（仮称）」については、開発やマーケティングの進捗状況が想定を下回っており、早期の収益貢献の見通しが立たないため、関連する業務を停止します。次期以降、当該サービスに投入してきた経営資源は、既存事業のほか、スマートフォンやソーシャル・ネットワーキング・サービスを始めとする新たなビジネス創出や、グループ各社での連携の推進に配分します。

これらにより、売上高の伸長と営業損益の黒字化を図ることを次期

の基本方針とします。

セグメント別の具体的な取り組みは以下のとおりです。

オープンシステム基盤事業においては、「LifeKeeper」の更なる拡販に向けて、製品機能の強化や販売パートナーとの関係強化に向けた取り組みを推進します。また、「Red Hat Enterprise Linux」を始めとするOSS関連のビジネスにおいて、それぞれの営業・技術・マーケティングの機能強化を行い、競争優位性の構築に努めます。

Webアプリケーション事業においては、従来のクラウド分野の製品・サービスに加え、当社独自のGoogle Apps™の機能拡張サービスである「Gluegent」シリーズの提供拡大等により、収益基盤の拡大を図ります。MFP関連ソリューションにおいても、継続的な機能強化及び営業活動の強化を行うことで、継続的な販売の伸長を図ります。また、スマートフォンやソーシャル・ネットワーキング・サービス等を活用した新たなサービス提供に向けた取り組みも推進します。

これらの要因に加え、2006年6月にSIOS Technology Corp.（旧SteelEye Technology, Inc.）を連結子会社化したことに伴うのれん償却額の計上が増加することもあり、2012年12月期の連結業績は、下表のとおり予想しています。

（単位：百万円）

	連結			
	2011年12月期 実績	2012年12月期 業績予想	増減額	増減率
売上高	5,110	5,300	+189	+3.7%
オープンシステム基盤事業	3,845	3,890	+45	+1.2%
Webアプリケーション事業	1,266	1,410	+144	+11.4%
セグメント間調整	△1	0	+1	—
売上原価	3,121	3,060	△61	△2.0%
売上総利益	1,989	2,240	+251	+12.6%
販管費	2,144	2,220	+75	+3.5%
(内のれん償却額)	232	120	△113	△48.4%
営業利益(△損失)	△155	20	+175	—
経常利益(△損失)	△161	20	+182	—
当期純損失(△)	△247	△20	+228	—
EBITDA	151	200	+49	+32.3%

# サイオスの取り組み

## 注力分野

「クラウド」と「OSS」の両分野において、数多くの実績と技術力・サポート力を有しており、今後も更なる強化に努めます。

### クラウド

Google Appsの導入実績は  
70万ユーザー※を突破！

※2011年12月末時点の教育機関 / 民間企業の合算ユーザー数

### OSS

OSSと商用ソフトウェアを組み合わせ、  
最適なソリューションを実現！

## 当社グループの事業領域

### オープンシステム基盤事業

#### 事業継続ソリューション

「LifeKeeper」 「DataKeeper」<sup>(7)</sup>

#### オープンソースソリューション

「Red Hat Enterprise Linux」  
「JBoss Enterprise Middleware」<sup>(8)</sup>

#### セキュリティソリューション

「i-FILTER」<sup>(9)</sup> 「m-FILTER」<sup>(10)</sup>

### OSS関連サービス

OSSワンストップソリューション

### Webアプリケーション事業

#### クラウドソリューション

「SIOS Integration for Google Apps」  
「Gluegent Gate」  
「Gluegent Apps」

#### SIOS Applications

MFP関連ソリューション

(7) 米子子会社SIOS Technology Corp. (旧SteelEye Technology, Inc.) の開発製品。データの複製を別の場所にリアルタイムに保存することを共有ディスク不要で実現するソフトウェア。

(8) 世界をリードするオープンソリューションプロバイダー Red Hat, Inc.が提供するエンタープライズ向けに最適化されたオープンソースの統合ミドルウェア製品。

(9) デジタルアーツ株式会社の製品。Webの私的利用を制限し、業務効率の向上や情報漏えいの防止を行うWebフィルタリングソフトウェア。

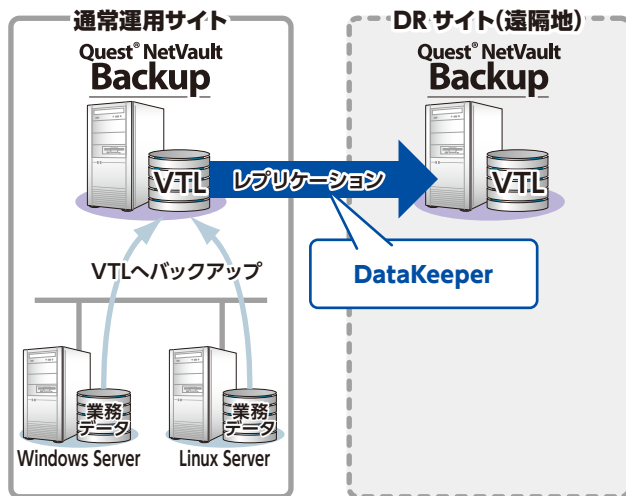
(10) デジタルアーツ株式会社の製品。送受信制御や全文保存、スパム対策を同時に実現する電子メールフィルタリングソフトウェア。

## 日本クエスト・ソフトウェアとの協業により、災害復旧ソリューションの提供を開始

当社と日本クエスト・ソフトウェア株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：大越 大造、以下：Quest）は、企業の災害復旧対策（ディザスタリカバリ＝DR）として、企業のデータを遠隔地にバックアップするソリューションの提供を開始しました。

これは、Questの高度なデータ保護ソリューション「NetVault Backup」と当社の「DataKeeper for Windows」を連携することにより実現するものです。昨今、企業の情報システムにおいて、システムの可用性向上やデータを保護することに加え、バックアップ・データを遠隔地へ退避するニーズが高まっております。単にデータをバックアップしておくだけではなく、遠隔地でも同様のデータを保管することは災害復旧対策の面で有効であり、それに取り組む企業が増えています。

本ソリューションは、仮想テープ・ライブラリ<sup>(11)</sup>（VTL）を遠隔地のDRサイトにレプリケーションするものです。これにより企業では災害による致命的なシステム障害時に、障害発生前の最新のデータを利用することが可能になり、事業継続性を確保できます。

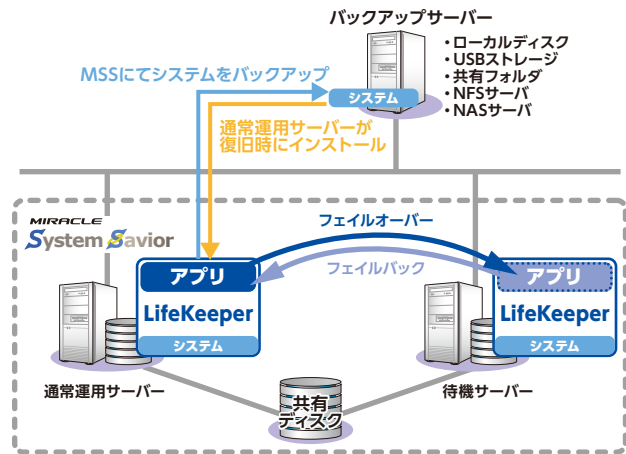


## ミラクル・リナックスとの協業により、システムバックアップソリューションの提供を開始

当社とミラクル・リナックス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：児玉 崇、以下ミラクル・リナックス）は、障害時のサービス継続の確率を高め、システム復旧時の作業が削減できるシステムバックアップソリューションの提供で協業しました。

これは、当社のHAクラスターソフトウェア「LifeKeeper」で構成されたシステムを、ミラクル・リナックスのシステムバックアップソフトウェア「MIRACLE System Savior（ミラクル・システムセイバー、以下MSS）」でバックアップするソリューションです。これまで対応が難しかったクラスター環境のシステムバックアップを簡易にし、災害時などのITシステムの復旧対策を強力にサポートします。

本ソリューションでは、「LifeKeeper」によるクラスターシステム構築時にMSSによってシステムバックアップをしておくことで、サービスの継続だけでなく、約1時間余りで元の「LifeKeeper」によるクラスター構成のシステムを復旧することが可能となります。



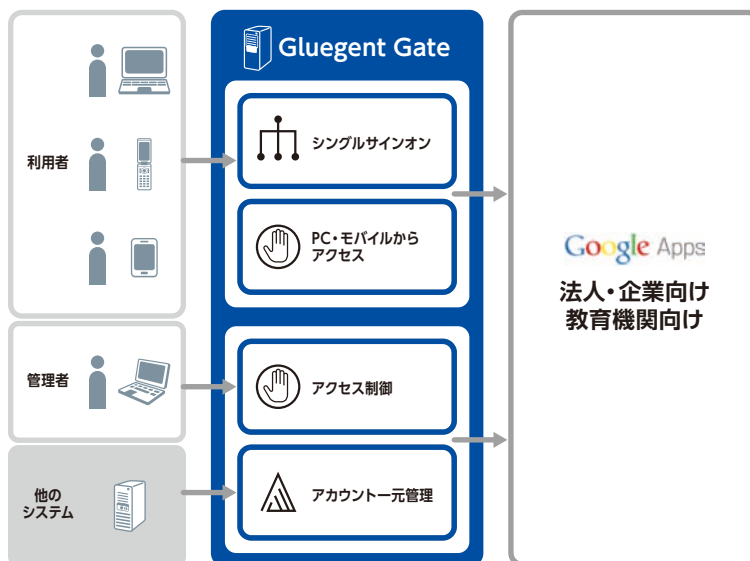
(11) ハードディスクの中に仮想的にテープ・ライブラリを作成し、その中にバックアップを行うことで、テープ装置を使用した場合と全く同じバックアップ運用を実現する「NetVault Backup」のディスク・バックアップ機能。

## 導入事例 「SIOS Integration for Google Apps」

当社は、1stホールディングス株式会社（以下、1stホールディングス）にクラウド型セキュリティサービス「Gluegent Gate」を活用しGoogle Appsを導入しました。また、スマートフォンとの連携も実現し、業務の生産性を向上させました。1stホールディングスは、まず、メールやグループウェアなどのコミュニケーション基盤を統合し、コスト負担や運用管理の負荷軽減を目的としていました。次に、より利便性の高いツールを用いることで、生産性の向上を図ろうとしていました。

そこで、早くからGoogle Appsの導入支援サービスをスタートさせ、70万アカウント以上への導入支援実績があり、サポート業務を専門とする部門をもち、導入から運用までを一貫して無償サポートしている当社がパートナーとして選ばれました。また、導入にあたっては、セキュリティ面での懸念を払拭するために、シングルサインオン、PCやモバイルからのアクセス設定、全般的なアクセス制御、アカウントの一元管理などをパッケージで提供する当社のクラウド型セキュリティサービス「Gluegent Gate」が活用されています。

### ■サイオスのクラウド型セキュリティサービス「Gluegent Gate」



## 連結子会社SIISが関心空間から事業譲受

当社の連結子会社である株式会社SIIS（以下、シーズ）は、2012年2月1日付で、各種ウェブサイトの開発・バージョンアップ及び運営に関する事業、及びクチコミサイト「関心空間」を譲り受けました。この合意にともない、シーズは株式会社関心空間が所有していた知的財産権、販売権、商標権、ブランド等も引き受けました。

今後シーズでは、シーズのもつ既存のSNSソリューションと譲り受けたサービスを融合した新たなサービス開発を進めていく予定です。

### ■概要

- (1) 商号：株式会社SIIS
- (2) 代表者：杉山 隆志
- (3) 所在地：福岡県福岡市
- (4) 設立：2011年5月2日
- (5) 事業内容：

Twitter、Facebookなどのソーシャルメディアを活用した地域活性化、マーケティングコンサルティング及びスマートフォンを活用した各種サービス企画・開発



連結貸借対照表

(単位:千円)

	第14期 2010年12月31日	第15期 2011年12月31日
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>2,437,122</b>	<b>2,321,088</b>
現金及び預金	1,125,195	1,180,418
受取手形及び売掛金	691,119	694,745
商品及び製品	851	764
仕掛品	11,621	29,349
原材料及び貯蔵品	277	277
繰延税金資産	16,635	13,068
前渡金	459,558	333,217
その他	145,088	80,281
貸倒引当金	△ 13,225	△ 11,034
<b>固定資産</b>	<b>795,710</b>	<b>454,718</b>
有形固定資産	93,205	75,405
無形固定資産	452,808	190,889
投資その他の資産	249,695	188,423
<b>資産合計</b>	<b>3,232,832</b>	<b>2,775,806</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>1,418,418</b>	<b>1,219,260</b>
買掛金	197,441	241,559
1年内返済予定の長期借入金	125,000	2,100
未払法人税等	9,529	41,609
前受金	842,014	757,231
その他	244,432	176,759
<b>固定負債</b>	<b>96,782</b>	<b>109,512</b>
長期借入金	—	7,700
退職給付引当金	83,316	95,984
その他	13,466	5,827
<b>負債合計</b>	<b>1,515,201</b>	<b>1,328,772</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>2,064,179</b>	<b>1,816,571</b>
資本金	1,481,520	1,481,520
資本剰余金	861,305	861,305
利益剰余金	△ 229,650	△ 477,258
自己株式	△ 48,995	△ 48,995
その他の包括利益累計額	△ 374,703	△ 397,012
新株予約権	16,966	15,591
少数株主持分	11,188	11,882
<b>純資産合計</b>	<b>1,717,631</b>	<b>1,447,033</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,232,832</b>	<b>2,775,806</b>

連結損益計算書

(単位:千円)

	第14期 自 2010年 1月 1日 至 2010年12月31日	第15期 自 2011年 1月 1日 至 2011年12月31日
<b>売上高</b>	<b>4,987,601</b>	<b>5,110,581</b>
売上原価	2,860,004	3,121,498
<b>売上総利益</b>	<b>2,127,597</b>	<b>1,989,082</b>
販売費及び一般管理費	2,410,633	2,144,522
<b>営業損失(△)</b>	<b>△ 283,036</b>	<b>△ 155,439</b>
営業外収益	6,516	2,168
営業外費用	9,619	8,472
<b>経常損失(△)</b>	<b>△ 286,139</b>	<b>△ 161,744</b>
特別利益	2,178	3,626
特別損失	1,564	48,432
<b>税金等調整前当期純損失(△)</b>	<b>△ 285,524</b>	<b>△ 206,550</b>
法人税、住民税及び事業税	7,313	40,796
法人税等還付税額	△ 15,710	—
法人税等調整額	29,913	3,566
少数株主損益調整前当期純損失(△)	—	△ 250,913
少数株主利益(△損失)	5,428	△ 3,305
<b>当期純損失(△)</b>	<b>△ 312,469</b>	<b>△ 247,607</b>

連結包括利益計算書

(単位:千円)

	第14期 自 2010年 1月 1日 至 2010年12月31日	第15期 自 2011年 1月 1日 至 2011年12月31日
少数株主損益調整前当期純損失(△)	—	△ 250,913
その他の包括利益	—	—
為替換算調整勘定	—	△ 22,308
その他の包括利益合計	—	△ 22,308
<b>包括利益</b>	<b>—</b>	<b>△ 273,221</b>
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	—	△ 269,916
少数株主に係る包括利益	—	△ 3,305

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	第14期 自 2010年 1月 1日 至 2010年12月31日	第15期 自 2011年 1月 1日 至 2011年12月31日
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>48,169</b>	<b>239,308</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 60,945	△ 22,538
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 275,373	△ 142,214
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 60,916	△ 19,332
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 349,065	55,223
現金及び現金同等物の期首残高	1,474,260	1,125,195
現金及び現金同等物の期末残高	1,125,195	1,180,418



## 連結株主資本等変動計算書

第15期(自 2011年1月1日 至 2011年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
2010年12月31日残高	1,481,520	861,305	△ 229,650	△ 48,995	2,064,179	△ 374,703	△ 374,703	16,966	11,188	1,717,631
連結会計年度中の変動額										
当期純損失 (△)	—	—	△ 247,607	—	△ 247,607	—	—	—	—	△ 247,607
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 22,308	△ 22,308	△ 1,375	694	△ 22,989
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△ 247,607	—	△ 247,607	△ 22,308	△ 22,308	△ 1,375	694	△ 270,597
2011年12月31日残高	1,481,520	861,305	△ 477,258	△ 48,995	1,816,571	△ 397,012	△ 397,012	△ 15,591	△ 11,882	△ 1,447,033

### 【連結貸借対照表】

#### 資産

流動資産は、前渡金の減少126百万円等の要因により2,321百万円（前連結会計年度末比4.8%減）となりました。

固定資産は、のれんの減少241百万円、投資有価証券の減少46百万円等の要因により454百万円（同42.9%減）となりました。

この結果、総資産は2,775百万円（同14.1%減）となりました。

#### 負債

流動負債は、買掛金の増加44百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少122百万円、前受金の減少84百万円等の要因により1,219百万円（前連結会計年度末比14.0%減）となりました。

固定負債は、退職給付引当金の増加12百万円、長期借入金の増加7百万円等の要因により109百万円（同13.2%増）となりました。

この結果、負債合計は1,328百万円（同12.3%減）となりました。

#### 純資産

純資産合計は、利益剰余金の減少247百万円等の要因により、1,447百万円（前連結会計年度末比15.8%減）となりました。

### 【連結キャッシュ・フロー計算書】

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」)の残高は、前連結会計年度末に比べ55百万円増加し1,180百万円となりました。

当連結会計年度に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

のれん償却額232百万円、前渡金の減少額126百万円、前受金の減少額74百万円等の要因により、営業活動により獲得した資金は239百万円（前年同期は48百万円の獲得）となりました。

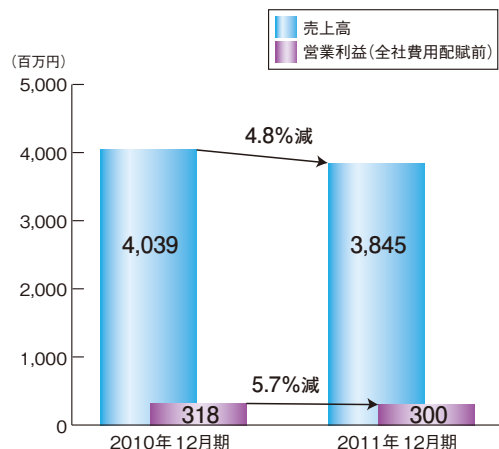
#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出15百万円、無形固定資産の取得による支出9百万円、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入4百万円等の要因により、投資活動により使用した資金は22百万円（前年同期は60百万円の使用）となりました。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出125百万円、リース債務の返済による支出27百万円等の要因により、財務活動により使用した資金は142百万円（前年同期は275百万円の使用）となりました。

## ■ オープンシステム基盤事業



※オープンシステム基盤事業における全社費用（一般管理部門にかかる費用）は、前年同期が348百万円、当期が288百万円

売上高	3,845百万円	(前年同期比 4.8%減)
営業利益 (全社費用配賦前)	300百万円	(前年同期比 5.7%減)
営業利益 (全社費用配賦後)	12百万円	(前年同期は △29百万円)

### 売上高

#### [国内]

- ・「LifeKeeper」は、大規模案件の減少等により減収だが、第3四半期以降、徐々に増収基調に回帰
- ・「Red Hat Enterprise Linux」は、新規受注金額は堅調に推移したが、旧製品・サービスが減収

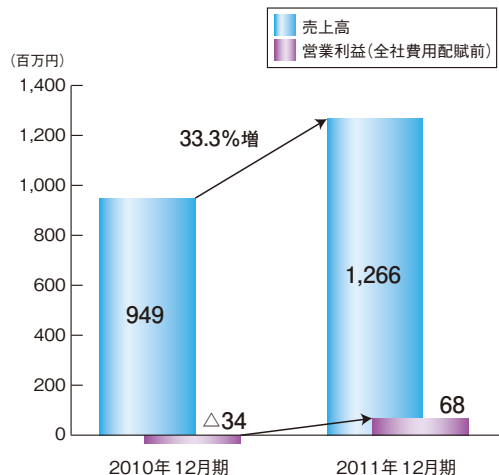
#### [海外]

- ・米州、欧州で苦戦したものの、その他地域（アジア・オセアニア）では徐々に伸長

### 営業利益 (全社費用配賦前)

- ・上記の要因により、利益が減少

## ■ Webアプリケーション事業



※Webアプリケーション事業における全社費用（一般管理部門にかかる費用）は、前年同期が218百万円、当期が236百万円

売上高	1,266百万円	(前年同期比 33.3%増)
営業利益 (全社費用配賦前)	68百万円	(前年同期は △34百万円)
営業利益 (全社費用配賦後)	△167百万円	(前年同期は △253百万円)

### 売上高

- ・「SIOS Integration for Google Apps」を始めとするクラウドコンピューティング関連の製品・サービスは増収
- ・Google Apps導入は70万ユーザーを突破（2011年12月末時点…大学／民間含む）
- ・MFP関連ソリューションも順調

### 営業利益 (全社費用配賦前)

- ・受託開発における不採算案件に伴うコスト増加が利益を押し下げるが、セグメント全体では黒字化

## 会社概要

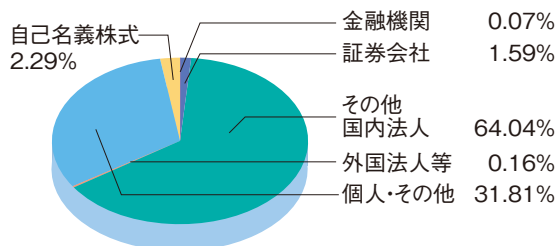
会社名	サイオステクノロジー株式会社 (英語表記：SIOS Technology, Inc.)																
本社住所	東京都港区虎ノ門四丁目1番28号 虎ノ門タワーズ																
設立	1997年5月23日																
資本金	1,481百万円 (2011年12月31日現在)																
社員数	連結 216名 個別 147名 (2011年12月31日現在)																
役員	<table> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>喜多伸夫</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>大塚厚志</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>福田敬</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>藤枝純教</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>伊藤正喜</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役</td> <td>平松祐樹</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>古畑克巳</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>齋藤哲男</td> </tr> </table> <p>(2012年3月22日現在)</p>	代表取締役社長	喜多伸夫	取締役	大塚厚志	取締役	福田敬	取締役	藤枝純教	取締役	伊藤正喜	常勤監査役	平松祐樹	監査役	古畑克巳	監査役	齋藤哲男
代表取締役社長	喜多伸夫																
取締役	大塚厚志																
取締役	福田敬																
取締役	藤枝純教																
取締役	伊藤正喜																
常勤監査役	平松祐樹																
監査役	古畑克巳																
監査役	齋藤哲男																
子会社	<p>SIOS Technology Corp. (California, USA)</p> <p>赛欧思(北京)科技有限公司 (北京市、中国)</p> <p>株式会社グルージェント (東京都港区)</p> <p>株式会社SIIS (福岡県福岡市)</p> <p>(2012年3月22日現在)</p>																

## 株式の状況 (2011年12月31日現在)

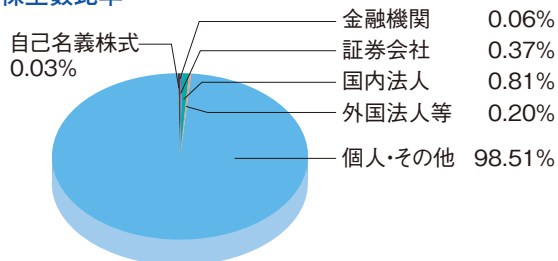
発行可能株式総数	150,000株
発行済株式総数	88,744株
	※自己株式2,040株を含む
株主数	2,958名

### ●所有者別株式分布状況

#### 株式数比率



#### 株主数比率



## 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。 <b>■住所変更等のお申出先について</b> 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
公告の方法	電子公告とします。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場取引所	東証マザーズ
コード番号	3744

(お知らせ)

※1) 当社の株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社は、関係当局の許認可を前提に、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行と平成24年4月1日をもって合併し、「三井住友信託銀行株式会社」となります。なお、平成24年4月1日(日)は、株主名簿管理人の休業日につき、実際のお取扱いは、平成24年4月2日(月)からとなります。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先・電話照会先  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所、電話番号の変更はございません)

※2) 日本証券代行株式会社による取次業務につきましては、平成24年3月末をもって終了させていただきます。

サイオステクノロジー株式会社  
東京都港区虎ノ門4-1-28 虎ノ門タワーズ 〒105-0001

[www.sios.com](http://www.sios.com)